

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成22年度:154.

全人工股関節置換術患者の排泄動作指導～羞恥心を軽減する看護介入～

黒田真里、川上あずさ、芳賀 恵、久保千夏

全人工股関節置換術患者の排泄動作指導 ～羞恥心を軽減する看護介入～

旭川医科大学病院 8階西ナーステーション ○黒田 真里、川上あずさ、芳賀 恵、久保 千夏

【はじめに】

当病棟の先行研究において移動時援助を要請せずに移動する要因として、リスクの理解不足・過信・遠慮・羞恥心の要因があげられ、4つの要因をふまえた看護計画を協働立案し看護介入を行った。その結果、脱臼予防に関してのリスクについては理解を深めることができたが、羞恥心を軽減することはできなかった。人工股関節置換術（以下THAと略す）後患者は脱臼予防の動作獲得に向けて、排泄動作指導が必要である。今回は羞恥心に関与していた排泄動作に着目し、羞恥心を軽減する看護介入が示唆されたため報告する。

【対象】

THAを施行したニーチャム錯乱混乱状態スケール27点以上の患者。

【方法】

研究者が主旨を説明した上で了解が得られた患者に対し、半構成的面接法を用いて聞き取り調査を行なった。排泄動作に対する羞恥心についての内容をカテゴリー化

し、羞恥心に対する看護介入を検討する。研究対象者には研究目的・研究方法を説明し、参加を断っても不利益が生じることがない旨を伝え、自由意志による同意を得て行った。データは記号化し、個人が特定されないよう配慮した。

【結果・考察】

先行研究の結果と本研究の調査結果より、トイレでの看護師の見守りは羞恥心を増強させていることがわかった。そのため看護師が、脱臼予防だけではなく羞恥心に対する意識を高めていくことが重要である。看護師の羞恥心に対する配慮や介入について患者・看護師間で話し合い、羞恥心を軽減するための方法を患者と共有していく必要がある。